

授業科目名	生徒指導・進路指導	教員名	田上 幸雅 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	必修
科目番号	SEI201	配当年次	3年前期		幼稚園教諭	選択
					保育士	選択
授業形態	講義				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	<p>「いじめ」や不登校、メンタルヘルスの不調などさまざまな諸問題を抱える学校教育の現状を理解し、児童生徒理解や望ましい人間関係づくりなど生徒指導の機能を学校生活のあらゆる場や機会の中に生かす方を習得することができる。</p> <p>キャリア教育が提唱された背景やキャリア教育の定義・目標、キャリア教育を推進するための体制整備や全体計画作成、小学校におけるキャリア教育推進のあり方などについて理解するとともに、具体的な取組み事例を通して、実践的な態度を身に付けることができる。</p> <p>(1) 生徒指導の意義と原理 生徒指導の意義や原理を理解する。</p> <p>(2) 児童及び生徒全体への指導 すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。</p> <p>(3) 個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校外の連携も含めた対応の在り方を理解する。</p>					
到達目標	<p>(1) 生徒指導の意義と原理</p> <p>1) 本講では、生徒指導の基礎となる個々の児童生徒の理解と指導に関する基礎的な知識の習得を目指す。</p> <p>2) 生徒指導に関する理論とその活用方法を理解し、学校現場で実践できることを目標とする。</p> <p>3) 生徒指導上、取り上げられる問題（例えば、いじめ、不登校、暴力行為、キャリア教育）に対する最新データをふまえた現状を理解し、その対応法に関する知識を獲得することを目標とする。</p> <p>(2) 児童及び生徒全体への指導</p> <p>1) 学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。</p> <p>2) 基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。</p> <p>3) 児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。</p> <p>(3) 個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導</p> <p>1) 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。 ※高等学校教諭においては停学及び退学を含む。</p> <p>2) 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。</p> <p>3) インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授業の概要	<p>生徒指導の定義、基本的な考え方、基本的な指導方法、キャリア教育の基本について学ぶ。また、文部科学省の報告書から生徒指導上の諸問題である暴力行為、いじめ、不登校を取り上げ、その現状および対応方法、そして予防的取組みについて学ぶ。</p> <p>生徒指導は、学校生活のあらゆる場や機会を通して児童生徒の健全な成長を促し、自己指導能力の育成を目指す営みである。進路指導は、児童生徒の社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる営みである。価値観の多様化、急激な社会の変化、高度な技術革新の中で、生徒指導上の各種の問題に対する解決の方策や、小学校からの体系的なキャリア発達を視野に入れたキャリア教育のあり方を考察する。授業形態は講義とする。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、レポート等を取り入れる。</p>					
履修条件・注意事項	なし					

授業計画

- 第1回：学校教育における生徒指導とは（目標(1)）
    - (1) 日本の学校教育の特徴
    - (2) 生徒指導（guidance）の意義と原理
  - 第2回：現代の子どもとこれからの生徒指導（目標(1)(2)）
    - (1) 子どもの発達課題と心理
    - (2) 現代の子どもの対人関係の変化
    - (3) これからの生徒指導の在り方
  - 第3回：教育活動における生徒指導（目標(1)(2)）
    - (1) 学習指導と生徒指導
    - (2) 生徒指導に役立つスキル
  - 第4回：生徒指導体制と組織的な取組み（目標(1)(2)）
    - (1) 学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割における生徒指導
    - (2) 学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の在り方
  - 第5回：生徒指導に関する主な法令（目標(1)(2)）
    - (1) 校則・懲戒・体罰
    - (2) 高等学校における停学及び中途退学の実際
  - 第6回：進路指導・キャリア教育とは（目標(1)(2)）
    - (1) 進路指導とキャリア教育
    - (2) キャリア教育の理論と内容
    - (3) キャリア教育の実際
  - 第7回：不登校の理解と対応（目標(1)(3)）
    - (1) 不登校の現状
    - (2) 不登校への対応
  - 第8回：いじめの理解と対応（目標(1)(3)）
    - (1) いじめの全般的動向
    - (2) いじめへの対応
  - 第9回：非行の理解と対応（目標(1)(3)）
    - (1) 非行の理解
    - (2) 非行への対応
  - 第10回：学級崩壊と授業崩壊の理解と対応（目標(2)(3)）
    - (1) 学級崩壊・授業崩壊のメカニズム、学校種ごとの特徴
    - (2) 学級崩壊・授業崩壊の予防の指針とその考え方
  - 第11回：家庭・地域・関係機関との連携（目標(2)(3)）  
地域社会-学校-関係機関とのかかわり方の実際
  - 第12回：特別支援教育と生徒指導（目標(2)(3)）
    - (1) 個々の子どもの障害特性に応じた指導の基本的な姿勢
    - (2) それぞれの発達段階で配慮するポイント
  - 第13回：進路指導・キャリア教育の展開（目標(1)(2)）
    - (1) 生涯のキャリア形成の視点に立った自己評価の意義
    - (2) ポートフォリオ活用の在り方
    - (3) キャリア・カウンセリングの考え方と実践方法
  - 第14回：「小学校の教育課程とのかかわりにおけるキャリア教育」に関する学習（目標(1)(3)）
    - (1) 小学校におけるキャリア発達
    - (2) 学力向上にキャリア教育の視点を生かす取組
    - (3) 道徳の時間、総合的な学習の時間、特別活動にキャリア教育の視点を生かす取組
  - 第15回：「中学校や高等学校におけるキャリア教育の推進」に関する学習のために（目標(1)(3)）
    - (1) 中学校におけるキャリア発達
    - (2) 中学校・高等学校におけるキャリア教育の全体像
    - (3) 小・中連携を生かし、学びのつながりを意識したキャリア教育
- 期末試験

授業外学修時間の確保について	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) <p>講義終了後、取り上げたテーマや問題について自分が興味をもったこと、重要だと感じたこと等について、自分なりに情報収集して理解を促進すること。</p>
学生に対する評価	期末試験、各講義において実施する課題によって評価する。所定の時間数出席しなければ受験資格は得られない。出席不足の場合は改めて受講しなければならない。
テキスト	河村茂雄(編著) 2025 生徒指導・進路指導の理論と実際 三訂版 図書文化 978-4-8100-5789-8
参考書・参考資料等	『生徒指導提要』(令和4年12月改訂版) 他、随時講義中に紹介する。
担当者からのメッセージ	特になし
オフィスアワー	授業の前後の時間(メール等でアポイントを取ること。)
備考	担当教員は、小学校・中学校における教員(生徒指導主事、進路指導主事)・校長としての経験を活かし小学校における生徒指導、進路指導についての講義を行う。